

(資料提供)

各 報道機関 御中
(計 3 枚)



ハチに擬態した新種のガ「ナシコスカシバ」

きめ細かな調査で未知の害虫を発見、大学と試験場のタッグで速やかに生態解明

研究の概要

鳥取大学、京都府病虫害防除所、京都府農林水産技術センター丹後農業研究所の共同研究により、京都府京丹後市内でナシの樹皮下を加害する「謎の芋虫」の正体とその生態を解明しました。

謎の芋虫は、成虫がハチに擬態したスカシバガ科コスカシバ属の新種であることが明らかとなり、幼虫がナシの樹皮下を加害することから「ナシコスカシバ(学名: *Synanthedon nashivora*)」と命名しました。ハチに擬態した姿と、腹部を裏側から見たときに目立つ太く白い帯が特徴で、既知のどの種とも明瞭に区別できる特徴を備えています(写真 1・2)。



写真 1: ナシコスカシバ雄成虫(左: 表面、右: 裏面)

スカシバガ科は国内に約 50 種を擁するガの仲間、成虫がハチに擬態していることで知られています。また、サクラ・ウメ・モモなどの大害虫コスカシバや、ブドウの重要害虫クビアカスカシバなど多くの果樹害虫を含んでいます。コスカシバ属はスカシバガ科の中で最もよく調査されている分類群で、本州の平地の、しかもナシ園から新種が発見されたのは極めて異例なことです。

本種はナシ園での発見後速やかに、鳥取大学、京都府病虫害防除所、京都府農林水産技術センター丹後農業研究所によって分類群の特定と基礎生態の解明が行われました(写真 3)。新種であるにも関わらず、既にナシ樹の加害部位、性フェロモン^{※1}の成分、発生消長^{※2}といった防除に有用な知見を得ており、防除関係者へ広く知ってもらうため学会^{※3}で発表しています。それらは順次論文化する予定です。



写真 2: ナシの葉に静止するナシコスカシバ雌成虫(京丹後市にて撮影)



写真 3: ナシ園におけるフェロモントラップを用いた発生消長調査(京丹後市にて撮影)

「ナシコスカシバ」の新種記載に関する論文は、国内外のガ類の分類や系統・進化を扱う学会誌『Tinea (日本蛾類学会発行)』に掲載されました。

用語解説

※1 性フェロモン

ガの多くは、雌が交尾の相手となる雄をフェロモンで呼び寄せて交尾します。農業現場では、ガが作るフェロモンと同じ物質を工業的に合成し、モニタリングや防除に生かしています。

※2 発生消長

1年を通じて成虫や幼虫がどの時期にどの程度発生するのかのサイクル。スカシバガの場合、性フェロモンでトラップに雄の成虫をおびき寄せ、トラップに捕獲された雄の数をモニタリングして発生消長を推定するのが一般的です。

※3 学会

2019年3月に筑波大学で開催された第63回日本応用動物昆虫学会大会にて発表しました。

論文情報

表題

"A new species of the genus *Synanthedon* [Hübner, 1819] (Lepidoptera: Sesiidae) from Japan"
(邦題: 日本から *Synanthedon* 属(スカシバガ科)の1新種)

著者

NAKA Hideshi, TOKUMARU Susumu, KUKIZAKI Takahiro, YANO Takahiro, YAMAGISHI Mizuki, MATSUI Yuki

中 秀司: 鳥取大学農学部

徳丸 晋: 京都府農林水産技術センター 農林センター / 京都府病虫害防除所(兼任)

久木崎 孝弘: 京都府農林水産技術センター 丹後農業研究所

矢野 高広: 日本蛾類学会

山岸 瑞樹: 鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科

松井 悠樹: 鳥取大学大学院連合農学研究科

掲載誌・巻号

Tinea 25 (Suppl. 1): 131-137

問い合わせ先

鳥取大学農学部 害虫制御学教育分野

准教授 中 秀司

TEL : 0857-31-5705 (研究室) 090-8864-7805 (携帯)

E-mail : chun@tottori-u.ac.jp

京都府農林水産技術センター 農林センター / 京都府病虫害防除所

主任研究員 徳丸 晋

TEL : 0771-23-9512

E-mail : s-tokumaru64@pref.kyoto.lg.jp

京都府農林水産技術センター 丹後農業研究所

主任研究員 久木崎 孝弘

TEL : 0772-65-2401

E-mail : t-kukizaki72@pref.kyoto.lg.jp